

No. 26 -

過去に奨学生だった人は、過去の受付番号をすべて書いてください。

主 願 書 医 薬 系 >

願書を書いた日付を西暦で書いてください。

受付番号のない願書は選考対象外です。

(継続申請者 No.25 -

半年間の継続希望

半年間の継続を希望する2025年度奨学生※は必ず○をつけてください(他奨学金との併給不可)。※標準修業年限内に修了する人のみ対象です。詳細はホームページの募集要項とQ&Aを読んでください。

年 月 日

①	フリガナ	年齢	満 歳
	氏名	② 生年月日	日
	アルファベット表記		国籍
	(母国語表記)	母国語で自分の名前を書いてください。	
氏名	Family name	First name (名)	Middle name
② 分野 (該当するものに○を記入) 医学・歯学・薬学・生物学・工学・栄養学・体育学			
③ 所属機関	大学(院)名 / 機関名	学部・研究科	学科・専攻
	学年(該当する)	留学のために最初に入国した年月を書いてください。(一時的に帰国して再入国した入国年月ではありません)	
	学部 博士前期(修士に該当) 博士後期(博士に該当) (4年制)博士課程	指導教員名	
	日本への入国年月	入学年月	卒業・修了予定年月
年 月	年 月	年 月	
④ 学歴及び職歴	学歴(母国の最終学歴から記入)・職歴		
	Q&Aの記入例を見て、空白期間がないように、母国の最終学歴から現在までの経歴を上から順に書いてください。		
	学部・研究科、学科・専攻も書いてください。	財団から大学へ連絡するときの連絡先情報を書いてください。研究室ではなく、大学の事務担当部署の情報を書いてください。	
⑤ 外国人留学生担当部署及び担当者名	大学(院)内の外国人留学生担当部署	担当者名とフリガナ	
	課・センター	(フリガナ:)	
	担当部署(担当者)の連絡先電話番号	担当部署(担当者)メールアドレス	
	-	-	

⑩ 生活費	家賃	生活費(食費・光熱費等) ※授業料・家賃は除く
	円/月	円/月
⑪ 収入等 (現状を正確に 記入すること)	誰かと同居している場合は、 自分が家賃として支払っている 金額を書いてください。	家賃や授業料を除いた毎月 の生活費を書いてください。
	ここに毎月の収入と支出を書いてください。家賃や生活費を 払っているのに収入がないなど、どのように生活費をまかなっている のか読み取れない場合は選考対象外です。昨年の奨学金の 残りや、貯金を取り崩して生活費にあてている場合は「その他収入」 欄に書いてください。	
	有	その他収入(児童手当、貯金の取り崩し等もここに書くこと)
		円/月 (内容:)
⑫ 授業料	前期の 減免状況	「前期の減免状況」には今年の4月～9月の、「後期の減免状況」には10月～来年3月までの減免状況を書いてください。授業料には1年間の通常の授業料を、自己負担額には自分が負担する授業料(例:前期〇〇円、後期末定)を書いてください。自己負担額が未定の方は「未定」と書いてください。
	授業料	
	後期の 減免状況	
⑬ 学業面	週に何日授業がありますか?	(対面・オンライン・両方) 日
	主に授業がある/研究をおこなっている時間帯	昼間・夜間・半々
	週に何日通学しますか?	日
	土日祝は学校/研究室へ通学しますか?	毎週・時々・休み
	平均して何時～何時まで大学(研究室)にいますか?	時～時
	現在受給中の研究助成金 ※受給している場合は支給団体名、期間、金額等記入する写しを添付のこと	
	有・無 名称: 円(受給期間: 年 月)	
過去の研究助成金受給実績 名称: (月額・年額 円 / 受給期間: 年 月)	授業や研究などで大学にいる 時間を書いてください。	
⑭ 現在の奨学金 ・研究助成金 併願状況	申請先 / 申請中・確定 / 月額・年額(○で囲む)	
	名称: (月額 円) 月 日)	過去に受給していた奨学金のうち、直近の奨学金 を2つ書いてください。 ※継続申請の人は、大塚敏美育英奨学財団から 奨学金を受給していた実績も書いてください。
	名称: (月額・年額 円) 月 日)	
⑮ 過去の奨学金 受給実績 (当財団の実績 も記入すること)	名称: (月額・年額 円 / 受給期間: 年 月 ~ 年 月)	
	名称: (月額・年額 円 / 受給期間: 年 月 ~ 年 月)	
	名称: (月額・年額 円 / 受給期間: 年 月 ~ 年 月)	

※ アルバイト等の収入や研究助成金の受給は合否に影響はありません。ただし収入と支出の明細が記入されていない、又はどのように生活が成り立っているかが読み取れない場合は選考対象外となります。

推薦状

[工学]

被推薦者名

【工学分野の申請者のみ】
必ず工学用の推薦状を使っ
てください。

上記留学生は貴財団奨学生として適格な人

但し、奨学生として採用された場合は、貴財団の諸規程を遵守するよう指導いたしますと共に、もし、給付停止の要件に奨学生が該当したときは、速やかに、その旨を貴財団に連絡することを確約いたします。

(推薦者)

年 月 日

大学(院)名
(機関名)

講座

役職

氏名
(自筆のご署名)

電話番号

【工学分野の申請者のみ】

指導教員の先生に内容を確認いただき、チェックを入れていただいた上で応募してください。チェックがない場合は選考対象外になります。(継続申請者用の工学の推薦状も同様です。)

以下を必ずチェック☑してください。

被推薦者の研究内容が医学または薬学に関連していること、実際に連携・応用を目指していることを認め、推薦します。

※ 講座、分野がない場合は空欄にしてください。

※ 氏名(ご署名)欄は推薦者が自筆でご記入ください。代筆・タイプの場合は選考対象外とします。

※ 必ず推薦者自らが封筒に入れ密封したものを提出してください。

※ 同じ研究室(指導教員)から複数ご推薦される場合は、「推薦順位とその理由書」も同封してください。

推薦理由

(推薦者との関係とその期間、人物・将来性についての所見、被推薦者が取り組むテーマの意義等)

※具体的にご記載ください。推薦理由が抽象的過ぎる場合は選考対象外になる場合がございます。

Blank lines for writing the recommendation reason.

※ 被推薦者が当財団奨学生に採用されて実施した研究成果が論文発表された場合には、その論文別刷(コピー可)の1部を当財団事務局まで送付していただきますようお願いいたします。また、論文には当財団より支援を受けた旨を謝辞欄に明記するよう被推薦者にご指導をお願いいたします。